

幼児に対する描画指導の課題

—「大沢野幼稚園における壁画制作」の指導から—

Task of Picture Education for Child

●ペルトネン純子／富山大学芸術文化学部

PELTONEN Junko / The Faculty of Art and Design, University of Toyama

●Key Words: Child Education, Picture Education, Kindergarten, Mural Workshop, Teaching Technique, Arts, Crafts, Design

要旨

本研究は、幼児に対する壁画制作を通して、描画指導における指導の効果と問題点から、描画指導の課題について見出すことを目的としている。

本壁画制作は、富山市立大沢野幼稚園の40周年記念事業の一つとして企画された壁画制作として行ったが、単なる記念事業として行われたわけではなく、絵画研究と幼児教育研究を同時に行う学生に対する壁画制作研究および幼児に対する壁面描画指導という実践研究を行う機会として提供したいという考えをもとに行われたものである。

そして本研究を行った結果、幼児に対する今回の指導の効果と反省点を踏まえ、幼児に対する描画指導の今後の課題は、次の3つの点と考えられた。1つ目は、事前準備段階での幼児に対する制作指導シミュレーションの充実。2つ目は、制作直前の指導内容の選択および言葉かけの工夫。3つ目は、制作中における言葉かけの工夫である。

1. 目的と概要

本研究は、幼児に対する壁画制作を通して、描画指導における指導の効果と問題点から、描画指導の課題について見出すことを目的としている。

本壁画制作は、富山市立大沢野幼稚園の40周年記念事業の一つとして企画された壁画制作として行ったが、単なる記念事業として行われたわけではない。絵画研究と幼児教育研究を同時に行う富山大学芸術文化学部学生（以後、芸文学生と表記）および同大学人間発達科学部学生（以後、人発学生と表記）に対する壁画制作研究および幼児に対する壁面描画指導という実践研究を行う機会として提供したいという考えをもとに行われたものである。

本壁画制作の実施については、平成24年2月下旬、大沢野幼稚園園長 高見泰子、富山大学芸術文化学部 ペルトネン純子、富山大学人間発達科学部 若山育代が集まり、話し合いを行った。そして本壁画制作は、長期的に幼児教育の現場を楽しく創造性のある空間とする意図、さらに壁画制作者側からの一方的な描画ではなく、幼児と

協力して描画をすることによって、幼児の感性が表現された空間づくりという意図を持って実施計画を立てることになった。そこでまず絵画研究と幼児教育研究を同時に行う芸文学生に壁画制作および幼児に対する壁面描画指導を依頼することになった。

まず平成24年6月下旬、芸術文化学部ペルトネンと学生の多智、田中と大沢野幼稚園園舎を見学し、壁画原案の作成を行った。さらに平成24年7月下旬、壁画への描画を開始し、8月24日に幼稚園側、芸文、人発による指導内容の打ち合わせを行った。そして平成24年8月31日に幼児たちに壁面への描画指導を行った。

その後、壁画の最終調整を行い、9月11日に壁画制作が終了し、平成24年9月29日大沢野幼稚園運動会において来場者に広く披露された。

2. 企画及びスケジュール

<描画内容について>

企画立案は、富山市大沢野幼稚園（高見泰子）、富山大学芸術文化学部（ペルトネン純子）、富山大学人間発達科学部（若山育代）。描画案および描画担当は、富山大学芸術文化学部（多智彩乃、田中大覚）。

指導実践日当日は、富山大学芸術文化学部（教員1名、学生2名）、富山大学人間発達科学部（学生4名）、大沢野幼稚園（教員6名、保護者6名）の合計19名で指導にあたった。

<描画順序>

ア) 多智による描画の構成案作成。描画範囲は、園舎1階の壁面。描画する内容は、園歌^{*1}の内容を踏まえた動植物や子どもたちを構成する。イ) 多智と田中による壁面描画。ウ) 幼児による壁面描画。エ) 多智と田中による仕上げ描画。

<塗料、道具>

- ・塗料：屋内塗装用水性塗料 18色
- ・道具：刷毛、筆、水洗バケツ、パレット、スタンプ（手づくり）、ビニールシート、ガムテープ、雑巾

<幼児による壁面描画日のスケジュール>

壁面描画日：平成 24 年 8 月 31 日（金）

08：30 指導内容の確認、描画準備。

09：00 年長児（5 歳）に描画方法の説明。制作。

09：30 年少児（3 歳）に描画方法の説明。制作。

10：00 描画準備。

10：20 年中児（4 歳）に描画方法の説明。制作。

11：00 片付け

3. 幼児への指導実践のようす

①指導担当者間の打ち合わせ

指導実践日当日、幼児へ指導を行う前に指導担当者間で主に次のような打ち合わせを行った。

壁面は、玄関正面と年中児部屋前と職員室前の 3 つの壁面エリアに分ける。玄関正面は田中、年中児部屋前はペルトネン、職員室前は多智が主たる指導担当者になる。また各壁面エリアには、幼稚園教員、人発学生、園児保護者を指導補助者として配置。

幼児は年長、年中、年少の各クラス 20 名ずつの園児を 3 グループずつに分ける。幼稚園教員が各クラスにおいて、幼児のグループごとにどの壁面エリアで描画するかを決めておく。

幼児の描画方法は、5 歳児は筆、3 歳児は手、4 歳児は手づくりスタンプで描画を行う。そこで芸文学生および人発学生は、各描画方法に合わせた描画準備を行う。

②年長児（5 歳）への指導

年長児を集め、田中が植物のツルや茎等を描くための導入指導^{図1}。特に、筆に付きすぎた塗料をパレットの上でしごくことや、筆洗バケツで筆を洗う時の注意等が指導された。そしてグループごとに各壁面エリアに移動し、各エリアに準備された塗料を用いて壁面への描画開始。筆で壁に描くということにためらいのある幼児に、どのような葉を描いてみたいか、どのくらい大きな葉や背の高い葉を描いてみたいか等の会話をしながら制作を促した。また使われる塗料の色や描かれる形のバランスを見ながら言葉



図1 年長児に対する制作直前の指導のようす

かけをし、壁画としての構成を踏まえた指導を行った。

③年少児（3 歳）の指導

年少児を集め、田中が手で葉や芽を描くための導入指導。特に、塗料を手につける時の方法や、手を壁に押し付ける時の方法等が指導された。そしてグループごとに各壁面エリアに移動し、各エリアに準備された塗料を用いて壁面への描画開始。手の形をきれいに壁に付ける方法について言葉かけをし、幼児の手の動きの補助を行った。また手に付いた塗料の様子と壁に押し付けられた手の跡の様子との比較などについて話し合い、次の手形のアイデアを考えさせるなどを行った。

④年中児（4 歳）の指導

年中児を集め、田中が花やつぼみを描くための導入指導。特に、段ボールや発泡スチロールでつくられた手づくりスタンプに塗料を付ける方法や、スタンプを壁に押し付ける方法等を指導された。そしてグループごとに各壁面エリアに移動し、各エリアに準備された塗料を用いて壁面への描画開始。スタンプによってどのような模様ができ、それらを構成するとどのような表現になるのかについて言葉かけをしながら制作を促した。またスタンプ模様がうまく表現できなかったことをもとに、新たなスタンプの使い方を想起させ幼児の発想を遮らない指導を心掛けた。

4. 幼児への壁面描画指導の効果と反省点

(a) 年長児への指導の効果と反省点

指導の効果としては、どのような葉を描いてみたいか、どのくらい大きな葉や背の高い葉を描いてみたいか等の会話をしながら制作を促したところ、数人の幼児たちは、持っていた筆に塗料をつけ直し力強い筆跡で壁面描画に取り組んでいた^{図2}。また使われる塗料の色や描かれる形のバランスを見ながら言葉かけをしたところ、数人の幼児たちは、各自で壁面を見渡し指摘された箇所にもどのように取り組むべきか確認している様子を見せ、その後に指摘さ



図2 壁面描画に取り組む幼児

れた色の筆に持ち替え、壁面描画に取り組み始めた。指導されたことをすべきかどうかを自身で確認する幼児の行動は、非常に興味深いと思われた。

反省点としては、幼児の制作直前の説明において、筆や塗料の扱い方の説明が主になり、どのような草やツルを描いてほしいかという具体的な描画内容の説明が不足していた。そのため、各壁面エリアに移動した幼児は、どこに何を描画すればよいのか戸惑っていた。そこで各壁面エリアの指導者たちの指導によって幼児の描画が始められた。その結果、幼児を興奮させるような言葉かけによっていたずら描きのような描画表現を生じさせてしまった壁面もあり、幼児の描画表現に大きな違いが生じた^{図3}。

(b) 年少児への指導の効果と反省点



図3 いたずら描きのようにってしまった壁面

指導の効果としては、手をパレットに押し付ける時間と手を壁に押し付ける時間を1から5まで数えさせることで、しっかりと押し付けるとはどのように押し付けることを意味するのかを幼児に分からせることができ、はっきりとした手形を壁面に残せた^{図4}。しかしこの押し付ける方法は、幼稚園教員の臨機応変な助言によって幼児たちに指導されたもので、指導の効果があった方法ではあるが、学生にとっては説明指導の不足に気付かされる場面であった。

また、幼児にとっては、壁に付いた手の跡も自分の手に残る塗料の跡も同じように不思議で楽しい状況であることが指導をしながら分かり、そのことを幼児との会話のきっかけにし、そこからどのような手形模様を壁に付けるかについて考え行動させることができた。

反省点としては、幼児の制作直前の説明において、塗料を手につける時の方法や、手を壁に押し付ける時の方法等が主に指導され、手でどのような模様を表現してほしいか、あるいは表現できるのか等の具体的な説明が不足していた。そのため各壁面エリアに移動した幼児は、どこに手を押しつけるべきか戸惑っていた。そこで各壁面エリアの指導者たちの指導によって幼児の描画が始められた。

その結果、指導者の手を壁面に押し付けて見本を見せなければならず、壁面に指導者の手の跡が多く残される壁面もあり、幼児の描画で構成されるはずの壁面構成を再考しなければならなくなった。

また、用意した塗料の水分量が多く、はっきりとした手形を付けることが困難な場面が多くみられた。さらに年長児の時に用意した色よりも明るい色調の塗料であったため、はっきりとした手形であったとしても目立たない模様となってしまった。これらは、特に事前の制作シミュレーション不足からくる道具準備の反省点と思われた。



図4 塗料を手につけている幼児のようす

(c) 年中児への指導の効果と反省点

指導の効果としては、年長児や年少児が描いた植物のツルや葉のための花やつぼみを年中児たちがスタンプで表現できたことである。また、スタンプ表現ではなく筆を使って描きたいと考えていた年中児も多くいた。そういった年中児と指導側の話し合いによって、スタンプに多くの塗料を付け筆の代わりに模様を描こうと工夫を凝らすことができたことも面白い効果であった。

反省点としては、幼児の制作直前の説明において、段ボールや発泡スチロールでつくられた手づくりスタンプに塗料を付ける方法や、スタンプを壁に押し付ける方法等の指導が主になり、スタンプでどのような花の模様ができるのか、スタンプ表現の方法についての説明が不足していた。そのため、スタンプ1つで花とする模様ばかりになってしまった^{図5}。

また年中児が用いた色彩とスタンプの形の強さによって、年少児の手形が模様としてさらに見えにくくなってしまった点。下地として描かれていた動物や人間の絵の上にスタンプを押してよいかどうかがあいまいであったために、各壁面を担当した指導者等のばらばらな助言に幼児たちの表現にばらつきが生じた点。赤い塗料の水分量の多さから、描画面からしたたるような模様が生じてしまい、何かが流血しているようで気分が悪いという意見が幼児たち

からも多く出された点。これらの反省点は、指導側の事前の制作シミュレーション不足のために生じたと思われる^{図6}。



図5 スタンプで壁に模様をつける幼児のようす



図6 赤いスタンプの模様がにじんでしまっているようす

3. 今後の課題

幼児に対する今回の指導の効果と反省点を踏まえ、幼児に対する描画指導の今後の課題は、次の3つの点と考えられた。1つ目は、事前準備段階での幼児に対する制作指導シミュレーションの充実。このシミュレーションを充実させるには、幼児の行動や情緒について更に実践経験がなければ困難と思われる。

2つ目は、制作直前の指導内容の選択および言葉かけの工夫。これは特に、幼児に何を指導するのかについて

明確にしておくことが重要と思われる。

3つ目は、制作中における言葉かけの工夫である。このことも2つ目と同様に、幼児に何をなぜ指導するのかについて明確にしておくことが重要と思われる。また同時に、幼児の性格、制作前に指導したことを幼児がどのように理解し行動するか、集中力を欠いているか否かなどの状況に合わせた言葉かけが重要であり、幼児への指導実践経験がやはり重要になるとと思われる。

4. まとめ

今回の実践から見出された幼児に対する描画指導の今後の課題は、当たり前のことではあるが教育現場における実践研究および実践に必要な理論研究を繰り返す行うことが重要と思われた。

しかしながら、実践研究を行う教育現場の協力を常に得ることは困難なため、今回のことを足掛かりに、幼児と直接かかわりを持てる機会を関係機関と連携して活動の機会を設けていきたい。

注釈

* 1 <大沢野幼稚園園歌>

作詞：牧野杏子 作曲：藤波 弘

1. おひさまおはよう（おはよう）きらきらきいろ（きらきらきいろ） みんなのぼうしも（ぼうしも）きらきらきいろ（きらきらきいろ） きょうもかぶつてようちえん おにわのおはなもうれしそう
2. おはながゆれて（ゆれて） みんながうたう（みんながうたう） おててをつないで（つないで）くるくるうたう（くるくるうたう） なかよしこよしのようちえん ことりもいっしょにうれしそう
3. すべりこてつぼう（てつぼう） みんながひかる（みんながひかる） みんなのかおも（かおも）にこにこひかる（にこにこひかる） げんきなよいこのようちえん おやまもおがわもうれしそう